

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 26 年 4 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 4 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,991 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）1.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,798 円（伸び率▲0.0%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,485 億円（伸び率▲0.2%）、薬剤料が 4,496 億円（伸び率 1.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 563 億円（伸び率 17.6%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,491 円	2.91 種類	22.2 日	85 円
伸び率（%）	▲0.1	▲0.4	+2.3	▲1.9

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,739 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）34 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 939 億円（伸び幅▲38 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 31 億円（総額 618 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,739 億円 （+34 億円）	21 循環器官用薬 （939 億円）	11 中枢神経系用薬 （618 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（478 億円）
0 歳以上 5 歳未満	45.5 億円 （▲3.13 億円）	44 アレルギー用薬 （18.4 億円）	61 抗生物質製剤 （12.2 億円）	22 呼吸器官用薬 （6.7 億円）
5 歳以上 15 歳未満	92.8 億円 （+0.83 億円）	44 アレルギー用薬 （49.0 億円）	61 抗生物質製剤 （13.3 億円）	11 中枢神経系用薬 （11.2 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,345 億円 （▲11 億円）	21 循環器官用薬 （293 億円）	11 中枢神経系用薬 （276 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（177 億円）
65 歳以上 75 歳未満	923 億円 （+34 億円）	21 循環器官用薬 （284 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（140 億円）	11 中枢神経系用薬 （107 億円）
75 歳以上	1,333 億円 （+14 億円）	21 循環器官用薬 （360 億円）	11 中枢神経系用薬 （224 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（157 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,798 円（伸び率▲0.0%）で、最も高かったのは石川県（10,979 円（伸び率▲1.2%））、最も低かったのは佐賀県（7,534 円（伸び率 1.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福岡県（伸び率 1.8%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲2.0%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 563 億円（伸び率：17.6%、伸び幅 84 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	53.8%	+7.3%
薬剤料ベース	12.5%	+1.7%
後発品調剤率	59.3%	+5.6%
（参考）数量ベース（旧指標）	35.0%	+5.1%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+17.6%	+33.2% （5 歳以上 10 歳未満）	+6.3% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.5%	13.3% （65 歳以上 70 歳未満）	8.6% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~39）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	499 億円 （+68 億円）	21 循環器官用薬 （125 億円）	23 消化器官用薬 （93 億円）	11 中枢神経系用薬 （55 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.35 億円 （+1.24 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.09 億円）	61 抗生物質製剤 （1.38 億円）	44 アレルギー用薬 （1.06 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.73 億円 （+2.51 億円）	44 アレルギー用薬 （4.89 億円）	61 抗生物質製剤 （2.01 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.55 億円）
15 歳以上 65 歳未満	177 億円 （+21 億円）	21 循環器官用薬 （39 億円）	44 アレルギー用薬 （29 億円）	23 消化器官用薬 （28 億円）
65 歳以上 75 歳未満	126 億円 （+18 億円）	21 循環器官用薬 （40 億円）	23 消化器官用薬 （24 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	181 億円 （+26 億円）	21 循環器官用薬 （46 億円）	23 消化器官用薬 （41 億円）	11 中枢神経系用薬 （24 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	826 円	1,143 円（岩手県）	664 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+16.4%	+24.2%（秋田県）	+10.2%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	53.8%	68.5%（沖縄県）	44.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.5%	16.5%（鹿児島県）	9.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	59.3%	71.8%（沖縄県）	51.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	35.0%	46.8%（沖縄県）	29.2%（山梨県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年4月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。